

令和3年度 ことばの冒険の旅「私のおすすめの本」コンクール
銚子市教育長賞（最優秀賞）

「ともだちは海のにおい」 工藤直子 作

銚子市立飯沼小学校3年 嶋田 圭

これは、ドキドキハラハラするお話ではありません。大冒険やふしぎなお話でもありません。でも、今ぼくが一番おすすめしたい本です。

主人公は、お茶が好きで、体そうがとくいないるかと、ビールが好きで、よく詩や小せつを書くくじらです。

ぼくは、いるかとくじらが出会った最初の景色から気に入って、三行目を読むころには、お話の中に、深く入っていました。音読もしたくなる、すてきな文章です。

「なにもない海だ。波もない。鳥もない。月もない。ただ、空いちめん、銀のこなになって、星が散るばかりだ。」

このしずかな夜、なかなかねむれず、いるかが背泳ぎでゆるゆるさん歩をしている時に、くじらに出会いました。

ぼくは、真夜中の海に行ったことはありません。でも、どこまでも続くしずかで広い海や、星だらけの空、魚がね返りをうって時々ゆれる海のそこのコンブなどが、頭の中や、目の前にうかびました。

夕立の場面では、

「このごろの夕立は、すごい。雨の粒が、ビー玉ほどもあって、おちてくるスピードもはやい。海に、チーズのような穴ができるほどである。」

という表現を読むと、バチバチバチという大きな音が聞こえてくるようでした。

また、楽しくて平和なところもおすすめです。ドキドキハラハラするところがないのに、本当におもしろいのかな、と思うかもしれませんが、それがおもしろいのです。

好きなことも、とく意なこと全然ちがう、いるかとくじらが、いっしょに色々なことを楽しめます。

たとえば、くじらは詩や小説を書くのが趣味で、いるかはくじらが書いた詩や小説を読んでもらうのが好きです。いるかは、読書が好きなくじらから宇宙の話の聞いたり、ぎゃくに、くじらがいるかから人間のくらしのことを聞いたりして、たくさんお話もします。

いっしょにサーフィンをしようとする日のお話もおもしろかったです。運動がとくいないるかと、運動はとく意じゃないし、サーフィンの板よりもすごく大きいくじらは、どうやっていっしょに楽しんだと思いますか？

ぜひ読んでみてください。きっと、すてきなけしきの中で、いるかとくじらと友だちになったような楽しい時間になると思います。

講評

本の中に描かれている世界を自分なりの映像として捉え、心豊かに本の世界に浸っている様子がよくわかります。この本の世界に浸ってみたいと思えるような作品でした。